

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム（職員派遣）
平成29年度事務職員短期派遣プログラム報告書

研 修 者	職 名	企画・情報部企画課 主任
	氏 名	今井 知子
研 修 先 等	渡 航 先 国 名	ドイツ
	研 修 先 機 関 名	京都大学欧州拠点
	研 修 期 間	平成29年10月5日～平成30年3月29日
具体的な研修内容	<p>ジョン万職員プログラムにより平成29年10月から半年間、京都大学欧州拠点にて、拠点運営に携わる機会を得ました。</p> <p>欧州拠点は、1. 欧州地域における研究活動の支援、2. 欧州地域における教育活動支援、3. 教職員・学生の国際化の推進及び4. 広報・社会連携・ネットワーク形成の4つのミッションに基づき運営されており、私は、会計及び総務業務等以外に、主に教育活動支援、広報及び欧州拠点主催イベントを担当しました。</p> <p>私の担当である、1. 会計及び総務業務、2. 教育活動支援、3. 広報活動、4. 欧州拠点主催イベントに加え、5. 出張について、ご報告します。</p> <p>1. 会計及び総務業務 会計業務として、交通手段の確認、ホテルの手配などを含むスタッフの出張手配、拠点業務に必要な備品等の購入とその立替払請求処理を行いました。また総務業務として、毎月1回開催される海外拠点等連絡会に提出する活動報告書の作成及び発表を行いました。海外拠点等連絡会に係る業務では、欧州拠点の活動をわかりやすく、的確に伝えるよう心がけました。</p> <p>また、京都大学欧州拠点には京都大学からの学生、教職員、他機関職員の来訪があり、その際に京都大学及び欧州拠点の説明、ハイデルベルク市内の案内等を行いました。</p> <p>2. 教育支援活動 次年度の交換留学の応募締切となる10月から11月にかけて、京都大学に留学を希望するハイデルベルク大学の学生が欧州拠点を訪れるケースや、メールで問合せをされる機会が増えたため、国際教育交流課と連携しながら、学生対応をしました。</p> <p>また、11月10日にハイデルベルク大学日本学科の留学説明会があり、</p>	

ブースを設置して留学希望者に対応するとともに、後日メールによる個別相談を行いました。この留学説明会や留学生対応を通じて、ハイデルベルク大学学生の京都大学への関心の高さを肌で感じることができました。ハイデルベルク大学日本学科には京都大学への留学枠が1名しかなく、希望者全員が京都大学へ留学することはできませんでした。また他学部の学生は、日本語で講義される科目を受ける場合の条件であるJLPT N1を所持している人がおらず、日本語での授業を受講することができ者もいました。N1を所持していなければ、KUINEPまたは全学共通科目（英語）の授業しか履修できず、その結果、本人が希望する授業を受けられないため、留学時期を延期する学生もいました。

11月18日にはロンドンにて **Experience in Japan** に参加し、京都大学及び京都大学への留学に関するプレゼンを行いました。（詳細は出張欄に記載。）

3. 広報活動

月例の欧州メールマガジンの作成及び学内関係者への周知を行いました。欧州メールマガジンは1カ月に1回、メールマガジンを希望する教職員にメールリングリストにて送付し、また教職員ポータルにも掲示しています。欧州メールマガジンの内容は、欧州拠点主催のイベント紹介、欧州の各機関による奨学金情報の提供、サマースクール情報などを掲載した。メルマガは長くて読みづらいとの指摘があり、装飾や長文をなるべく減らし、各トピックにタイトル番号を付す等工夫をしました。

また、欧州における本学のプレゼンスの向上と活動紹介のため、日独ジョイントレクチャー等欧州拠点が開催したイベントについて、欧州拠点HP及びFacebookに記事を掲載しました。

今回、初の試みとしてFacebookにジョン万職員日記の掲載をはじめました。今後ジョン万職員として欧州拠点に赴任する方に少しでもドイツの日常生活を知っていただくこと、またジョン万プログラムに関心を持ってもらえたらとの思いからです。

4. 欧州拠点主催イベント

(1) 日独ジョイントレクチャー

日独ジョイントレクチャーとは、相互にオフィスを持つハイデルベルク大学と京都大学が、両大学の学術交流の深化と発展を目指し、不定期にレクチャーを開催するものです。私の滞在中は、ハイデルベルクに於い

て2回開催しました。(12月人文研・藤原教授、3月防災研・西嶋教授)私はポスター配布、欧州拠点HP及びFacebookによる広報、当日の記録作成、設営を行いました。参加人数は21名(12月開催)、7名(3月開催)でした。参加者から熱心に質問があり、レクチャーを行ってくださった先生方にとっても実りある時間だったのではと感じました。また日独ジョイントレクチャーの後は、交流の場(日独ジョイントレクチャーを開催した建物内の別の場所)を提供し、参加者同士が熱心に話している姿を見ていると、ここから新たな交流が始まるのだと強く感じました。

(2) スタムティッシュ

Stammtisch の、Stamm は木の幹、Tisch は机、stammtisch はレストランなどで常連客が集うテーブルという意味で、それが転じて常連同士の交流会のことを言います。ハイデルベルクにもこの stammtisch があり、参加者は京都大学からの交換留学生、日本学科のハイデルベルク大学の学生に限らず、ハイデルベルクに住んでいる日本人、ドイツに語学留学している学生の参加もあり、ざっくばらんに情報交換をしてもらう場となりました。私は Facebook への広報、また当日は京都大学及び京都に関連するクイズ大会を開催し、正解者には京都大学グッズをプレゼントしました。単に情報交換の場を提供するのではなく、クイズ大会を行うことにより、より京都大学に親しみをもってもらえたと思います。

5. 出張

11月から12月半ばにかけて、ロンドン留学フェア、JANET Forum、チューリヒ大学の staff week 等に出張する機会を得ました。特に印象に残った出張を以下に記します。

(1) 11月18日：Experience in Japan (ロンドン)

2017年11月18日(土)、Royal Society, Londonにて開催された。主催は、慶應義塾大学、British Councilです。

参加機関は、ブース参加は(同志社大学、北海道大学、国際基督教大学、日本外国語専門学校、慶應義塾大学、京都大学、九州大学、大阪大学、立命館大学、上智大学、東京大学、東京工業大学、早稲田大学、山梨学院大学、大和日英基金、在英国日本国大使館、日本航空株式会社、国際交流基金、日本学術振興会)及び資料参加(：中央大学、国際大学、金沢大学、神戸大学、明治大学、名古屋大学、岡山大学、沖縄科学技術大学院大学、会津大学、東北大学、豊橋技術科学大学、筑波大学、日本学生支援機構、グレイトブリテン・ササカワ財団、国立大学協

会、日本政府観光局、The Japan Travel Centre) であり、来場者数約550名でした。

参加者のうち、京都大学のブースには約100名の訪問ありました。京都大学への関心の高さ、研究希望分野が情報学から日本の歴史等多岐に亘ること、また英語にて修了できるコースの有無等、イギリスの方のニーズを直接伺う貴重な体験となりました。また、Royal Societyという大変すばらしい場所で、はじめて英語で京都大学及び京都大学留学に関するプレゼンを行いました。

Royal Societyは、現存する最古の科学学会であり、アイザックニュートンも理事長をつとめた学会です。カールトンハウステラス8番地の建物を使用しており、このカールトンハウステラスは、ヨーク公記念碑のある階段を挟んで、左右それぞれ150m位の白いフラットな建物であり、ジョージ3世の皇太子時代の宮殿を、ジョージ4世が改築したもので、シャーロック・ホームズの物語に出てきた事もあります。私のような一職員が、このような素晴らしい場所でプレゼンを行えたことに、大変興奮しました。

Experience in Japanへの参加者は、すでに日本についての知識はあると考え、留学の方法、日本での生活、奨学金制度等来訪者の知りたい情報が何であるかを考えながらパワーポイントを作成、発表を行いました。

(2) 11月23日～25日：JANET Forum 及びアルザスワークショップ

ヨーロッパに拠点をもつ日本の大学の集まりに参加する機会を得ました。法人格の取得、銀行口座の開設等、他大学の状況、拠点独自の悩みを共有することができ、大変貴重な経験でした。

(3) 11月27日～30日：staff week (スイス・チューリヒ大学)

Safety, security and Environment という研修に参加する機会をいただきました。今まではURAの方と一緒に出張に行っていましたが、今回は一人での出張となり、一人で他の参加者の輪に入るという私にとってはとてもハードルの高い出張となりました。ヨーロッパから来た他の参加者と混じり、京都大学の safety, security のディスカッション、他大学の安全アプリ情報収集を行いました。また、朝から夜までずっと他の参加者と一緒だったため、研修テーマだけでなく、欧州の移民について、日本の新幹線について等、いろんなことを話し合いました。欧州の今を垣間見る大変貴重な経験でした。

	<p>(4) 12月16日：Kyoto Tag (ドイツ・ケルン)</p> <p>ケルン市と京都市が姉妹都市であることから、Kyoto Tag (京都の日) が毎年開催されています。Kyoto Tag に本学の学生3名、園部 URA と参加し、私は、京都大学及び欧州のこと、学生3名はドイツ留學生活、京都大学生生活等をドイツ語で発表しました。学生からはドイツ語の勉強をするモチベーションがあがったと大変好評でした。またブースには京都大学に関心のある方が訪ねてくださるなど、ここでもやはり京都大学、京都及び日本の関心の高さを肌で感じることができました。また Kyoto Tag 終了後には、学生3名と懇親会を開催しましたが、ビザ取得の大変さ、交換留学生は学生寮に入れるが、それ以外の留学生は学生寮に入れず苦労している話等、学生から生の話を聞くことができました。</p>
<p>本学の国際化に対する研修成果の活用方法・フィードバック</p>	<p>ジョン万職員研修を通じて、実際に滞在しないとわからないこと、欧州の今を肌で感じることは大変貴重な経験でした。ロンドン留學フェア、Kyoto Tag を通じて日本に対する関心の高さ、京都大学への留學希望者の多さ、留學希望者が何を望んでいるのかニーズを知ることができました。また普段の生活の中で、英語で自分の意思を伝え、仕事をすすめていくという自分自身の能力向上にも繋がりました。欧州拠点での半年間の経験は、大学のグローバル化がますます進んでいく中で、必ず業務の役立つと思っています。私の異動先は医学・病院構内共通事務部経理・研究協力課国際掛であり、4月から国際関係業務に携わりこととなりました。具体的な仕事の内容はまだわかりませんが、欧州拠点での経験を思い出しながら、業務への工夫とチャレンジを心がけ、毎日、精進していきたいと思っています。</p>
<p>休日の過ごし方</p>	<p>ドイツは、日曜日はお店が休みという休店法があり、そのため土曜日に買い出しに行き、日曜日は観光をするという日々を送っていました。私は絵画鑑賞が大好きで、ヨーロッパの美術館は所蔵絵画数も多く、また建物が広く開放的に作られており、ゆったりと絵画を見ることができました。また学芸員と思われる方が、幼稚園や小学生の子ども達に絵画鑑賞ガイドツアーを行っている姿を多々見ることがありました。小さい頃から、絵画に親しむこちらの習慣にうらやましさと机上の勉強だけでない教育内容のすごさを感じました。</p>